第 51 回　昔の日記帳から

今年は 11 月に入ってから漸く秋が深まったように感じられたのも束の間、中旬には寒気が到来した。梅雨明けが 7 月末と遅く、暑い夏が永く続き、10 月になってもまだ残暑が続いていた。筆者の住む仙台でも残暑とはいえ、秋分後の暑い夜も流石に窓を開け放して寝ることはなくなったが、二重窓を一枚だけ閉めて寝ると夜半にはよく庭の虫の声が聴かれた。10 月はコオロギとスイッチョがよく鳴いたが、とくにコオロギは 11 月近くまで細々として悲しそうだが味のある鳴声を聞かせてくれたものである。

11 月中旬になって急激に気象状況が変化した。北海道帯広では初雪が平年より 22 日、昨年より 33 日早くみられたということであった。今年は明らかに異常気象なのである。この時期になって太平洋上に超大型の猛烈な台風 30 号が発生し、フィリピン・レイテ島を襲い、人口 22 万の中心都市タクロバンを含むその地方に未曾有の大被害をもたらし、国連人道問題調査室（OCHA）の 11 月 14 日発表による死者 4,460 人という想像を絶する悲しい報道があった。犠牲者は将来その発表よりも多くなることが危惧される。いまはこれ以上被害が拡大しないように祈るよりほかはない。

最近自宅の本棚があまりにも雑然となっているので、一念発起して整理整頓することにした。二十数年間住んでみると本棚は本以外にも雑多なものが入り込んでおり溢れ出るほどになっていた。

整理中筆者が呼吸器外科教授に就任した 1989 年以来、年毎に使用した手帳が見つかった。手帳は十数年分が揃っており、捨てるわけにはいかなかった。定かでない記憶を辿ってみると、大学院生として医局に入局して以来手帳記入は習慣となってしまい、同時期に入局した医学部時代の同級生 5 人のうち今でも親友であるひとりが、「藤村殺すには刃物はいらぬ、手術を二三度干せばいい。そうでなければ手帳を取り上げればいい。」などといったほど手帳は手放すことができなくなっていた。

本棚の整理中に手帳とともに、極めて珍しい、一年間欠かさず毎日書き続けた日記帳一冊が見つかった。その日記帳は、学会などで自宅を離れた期間のことは、ホテルのメモ用紙に書いて持ち帰ってコピーして当該頁に張り付けて満たされていたほどで、あとにも先にも存在しない一冊である。以下いくつかその内容の一部を読みながら思い出して書き出してみる。

○月○日．「人間の記憶について」人間の記憶ほど個人差のあるものはないと思う。何十年前の大切とは思われないようなことをこと細かに覚えている者もいるし、ほとんど忘れてしまって、他人に言われてそのような事があったようだと思い出す者もいるし、全く覚えていないことが多いというのもいる。そのようなことは、その人のその物事に対する関心があるかどうかで決まるのであろう。記憶力の良いものが優秀かというと、必ずしもそうではなく、科学における創造力とは相関するとはいえないのではないか、と思う。

○月○日．医局員提出の論文査読で「よい論文（臨床論文/症例報告）とは①目的が明確に記されている.②内容と考察が連結している.③その道を学ぶものが読みたいと思うもの（つまり新しい内容があるもの）などが最低条件である」と書いて本人に戻した。

○月○日（日）．午後2時研究室へ。「くるみ割り人形」を聴きながら仕事をした。

○月○日．右肺尖部パンコースト腫瘍（37 歳・男）の手術をする。8 時間かかった。

○月○日．○○君の右上葉切除のライター（指導者）をする。彼は卒後 10 年以上にもなって肺切除の術後合併症が多い。今後まだまだ教え込まなければならない。

○月○日．胸腔鏡による肺手術に初めてつきあった。術者は○○君だが、相手をするとこの手術法は手の使い方が普段と逆になってしまい、やりにくいものである。

○月○日．○○君が術者で手術した患者○○さんを回診した。その術者に術後合併症が多いのは、手術の実力がないということか。慎重さが足りない。教授が何から何までしなければならないと思うと憂鬱になる。

○月○日．○○君が学位論文のための実験のプロトコールをもってきた。内容が未熟すぎるので学位のための研究はどうするのか教えようと思う。しかし意欲満々なのは評価でき頼もしい。このような人はどんどん伸ばしてやる必要があると痛感する。

○月○日．東京医大の早田教授（故人）より電話あり。コロラド・スプリングス（世界肺癌学会あり）でゴルフをしようとのこと。靴下と手袋位は持参しよう。

○月○日．久し振りでまともな手術（左下葉管状切除）をした。○○君には教える意味で二重結節縫合法による気管支吻合をしてもらった。

○月○日．朝 5 時半に起きて研究室へ行き、滞っていた仕事を一気に片づけた。2 時間ほどかかったが、一旦家に帰ったところ、目覚ましが鳴っていたと息子に注意された．今後気を付けよう。8 時 30 分に病院へ行き、若い女性の胸壁肉腫の手術を○○君らを相手にして行った。欠損部が右側胸部に 12cm×13cmになってしまったため、マーレックスメッシュのメタクリレートサンドイッチ（骨セメント）法で補填した。この方法は筆者の畏友のひとりである渡辺洋宇教授（金沢大学・故人）のご示唆により、米国のマコーマック論文を参考にして行った。

以上、昔の日記帳を読み返して、ほんの一部目についたところをランダムに書き出してみた。これらのほかにもエピソードは多いが、節度がなくなるのでこのあたりでやめにする。

最近は記憶すべきことをますます専ら手帳に頼るようになった。連れ合いの記憶の良さと比較するだけ、筆者の記憶力の低下を実感せざるを得ないこの頃ではあるが、脳を持続的に鍛えることで記憶力を保つ努力をしなければならない。最近の研究でも神経細胞間における情報伝達のための構造物である接合部のシナプスのほか脳の神経細胞でさえ再生がおこるといわれている。

生活習慣に配慮しながら脳の健康を保ちつつ実社会のなかで生涯を終えたいというのがこの頃の思いのひとつである。